

日本臨床発達心理士会神奈川支部



NEWS LETTER かながわ

2012 年度第 1 号(通巻第 11 号)

2012 年 8 月 6 日 神奈川支部 発行

連絡先 e-mail: jacdp-kanagawa@hotmail.co.jp

巻 頭 言

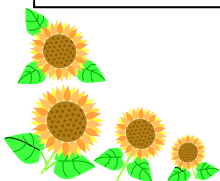
神奈川支部 支部長 三隅 輝見子

神奈川支部は、設立 7 年目を迎えました。支部役員体制の二期最終年（役員任期は一期 3 年）にあたる昨年度は、支部設立時から支部長をお勤めいただいた関戸英紀先生（横浜国立大学）のもと、日本臨床発達心理士会第 7 回全国大会を神奈川の地で開催し、盛況の内に終了することができました。会員の皆様のご支援、ご協力に感謝申し上げます。

さて、支部活動は、今年度から三期目に入ります。去る 5 月 26 日（土）の総会では、役員の選出が行われ、会員の皆様の承認を得て、新役員体制がスタートいたしました。

現在、神奈川支部は、会員 206 名を擁しています。会員の所属は、教育機関 26%、行政機関（児童相談所、福祉保健センター、教育委員会等）22%、療育機関 17%、大学・研究機関 16%、一般臨床機関（病院、民間相談所、地域作業所、就労支援施設等）12%、その他（幼稚園、保育所等）7%と多岐にわたります。会員の活動領域が多岐にわたることは、生涯発達支援をめざす“臨床発達心理士”にとっては当然のことです。会員の活動の場が異なり、支援対象や支援内容が異なるからこそ、“臨床発達心理士”として共通の基盤となる専門性と技術の向上、会員間の相互交流、地域連携の推進を意識的に図ることが必要になります。また、心理職の国家資格化など、“臨床発達心理士”の存在基盤に関わる情報をタイムリーに取得していくことも必要です。

新役員一同、研修や広報、情報提供など、支部活動の充実に一層務めますので、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



神奈川支部研修会報告



テーマ：大震災に備える一心のケアと臨床発達心理士－

日時：2012年5月26日（土）13：30～16：30

場所：横浜市青少年育成センター

講師：白川美也子（横浜カメラiahospital・精神科医）

参加者：47名

東日本大震災から1年以上がたちましたが、復興は思うように進まず、多くの方々が心の傷を抱えたまま日々を送っておられます。東海、あるいは関東で大震災が起こる可能性も指摘されており、神奈川に住む私たちにとっても他人事ではありません。そこで今年度第1回目の研修会は、大震災に遭遇した時に備えて、臨床発達心理士としてどのような心構えを持つべきか、学びたいと思いました。今回の講師にお迎えしたのは、心的トラウマによる後遺症治療の専門家であり、東日本大震災の被災地で継続的に心のケアに当たっておられる白川美也子先生です。先生は子どもの虐待、DVなど対人暴力被害によるトラウマがご専門で、成人だけでなく乳児院、児童養護施設、婦人保護施設などでの社会福祉施設での活動にも力を入れておられます。

講演では、トラウマとPTSD、特に子どものトラウマについて、複雑性PTSD（DESNOS）概念、発達性トラウマ障害など、臨床発達心理士として押さえておくべき最新の知見を学ぶことができました。また、昨年7月以来先生が岩手県で実践しておられる被災地支援のご経験から、非常に具体的なお話を伺うことができました。ご紹介いただいた症例のひとつひとつがとても心に残り、被災地での心のケアを継続的に行っていく必要性をひしひしと感じました。さらに子どもが災害に遭ったときにどんな症状が出るか、リスクとなる要因は何か、トラウマを引き起こすトリガーにどんなものがあるか、どんな風に子どものサインを読み取り、寄り添っていくかなど、多くの例を挙げてお話してくださいました。災害にかかわらず、虐待などによる子どもの心の傷をどう受け止めていくのか、支援者として、専門家としてどうあるべきか、などさまざまなことを考えさせられました。

講演の後に「自分にできること・やってみたいこと・心がけたいこと」について少人数のグループで話し合い、先生がそこで出た意見を紹介して今回の研修が締めくくられました。

白川先生は身ぶり手ぶりを交えた熱演で私たちをすっかり魅了してしまわれました。また、118枚ものスライドと別冊の資料が用意され、たくさんのお土産をいただくこともできました。たった3時間とは思えないほど密度の濃い、充実した研修会となりました。

紹介著書：季刊『Be!』107号（2012.6）

「特集 ト라우マを受けた人に伝えたい7つのこと 『今』『ここ』が大切な理由」白川美也子
（文責 牛島 智子）

研修会の様子

白川 美也子 氏



研修アンケート結果

講演内容

「知識の広がりにつながりましたか？」

とても思う: 32名 82%
 そう思う: 6名
 どちらともいえない: 1名

「臨床場面に役立ちますか？」

とても思う: 26名 67%
 そう思う: 11名
 どちらともいえない: 2名

講演の感想

震災後の心理的ケアにとどまらず、トラウマを多方面から解説

知識の広がりと感じ「トラウマ」の視点

PTSDと
 発達障害と
 親子関係と
 虐待と
 発達を見ていく

話しのペースが速く、専門用語も多く、資料も大量

情報量が多かった

再度読み返し復習したい
 よい刺激になった
 具体的な事例をもっと聞きたい
 もっと時間をかけて話を聞きたい

防災に関して、気になること・要改善点

今の備え

建物の安全確認
 被災障害者支援に関する教育の普及
 本当に起きる危機感の不足
 自分自身の準備

マニュアルはあるけれど
 対応の周知が不十分
 実際に動けるか

起きた時どうする

情報・連絡

役割分担
 判断・指示

夜間対応

今回の研修を生かしたいものです

その後の支援

心のケア

研修企画の参考にします

今後の研修希望

形式
 トラウマ・白川先生のお話をさらに
 事例・症例などより実践的なもの

内容
 発達障害児・者の自己理解
 成人以降の発達支援
 発達障害と虐待
 家族支援
 アサーション

回答者39名

大まかな内訳

療育・教育・支援
 相談業務
 不明

就学前: 8名
 学齢期: 8名
 大学生・成人: 4名

ご参加・アンケートへのご協力ありがとうございました！

活動報告

このコーナーでは、神奈川支部会員の方に日ごろの臨床実践の活動報告をしていただきます。
今回は、震災支援として JDDNET 福島プロジェクトに参加された、横浜市総合リハビリテーションセンターの尾崎浩子先生にお願いしました。

JDDNET 福島プロジェクトに参加して

横浜市総合リハビリテーションセンター 尾崎浩子

私は JDDNET 福島プロジェクトで、2011 年 10 月 17 日から 21 日の 5 日間、福島県相馬市に行ってきました（プロジェクトの詳細は、臨床発達心理士の HP をご覧ください）。

相馬市近辺は JR と高速道路で東京と仙台につながった便利のよいところだったようですが、津波と原発事故により両方の経路が寸断され、福島市から迂回して行かざるをえなくなりました。震災後、多くの幼稚園、保育園、学童保育が閉鎖される状況の中、2011 年 4 月に、障害のある児童の放課後支援の場として開設された「ゆうゆうクラブ」に、いろいろな経過を経て、JDDNET が支援を始めたのです。その「ゆうゆうクラブ」を拠点に、現地のスタッフの方と協力して相談・支援を行いました。

「ゆうゆうクラブ」では、養護学校に在籍する小～中学生と、放課後の時間を過ごしました。スタッフの保育士さんは療育の経験があり、適切な対応をされていました。場所は民間のカルチャースクールの一室を間借りしたところで、決して恵まれているとはいえませんが、できるだけ環境設定を工夫されていました。全国から遊具や教材が支援物資として届いていました。子供さんが来る前の時間には、スタッフの方とともに教材作製をしたり、近隣にお住いの障害のあるお子さんの相談に対応しました。

原発の近くに住んでいて急に避難せざるを得なくなった家庭は、障害特性にあった装具や椅子などを持ち出せずに生活されています。職場にたくさんあるクッションチェアが今ここにあれば楽に座れるのに・・・と感じました。

2 日間は、南相馬市の保健所に一歳半、三歳の乳幼児健診の発達相談に行きました。2 日とも 20 組くらいの親子がおいでになりました。乳幼児健診のために、離れた避難先からおいでになった方が多かったのですが、育てにくいお子さんをお持ちの家族の中には、避難先での生活が困難で避難したくても難しいという実態を知りました。南相馬市は幼稚園や保育園、病院が閉鎖になっていることが多く、放射能の不安と合わせ、たくさんの困難を抱えて子育てをしていらっしゃいました。

また、月に 1 度開催されている関係機関の連絡調整会議にも同席しました。困難な状況の中で、各機関が連携を図られている様子や、震災後半年たって浮上してきた問題を感じました。当然ながら、現地スタッフの方全員が被災者です。仮設住宅で生活をしている方、子供がいるので離れた場所に避難しながら日ごろの業務を行われている方もあり、頭が下がる思いでした。福島の方のお人柄なののでしょうか、現地であった子供さんたちはみな穏やかで、家族の方も、スタッフの方も本当に暖かい方々ばかりでした。

よく言われていることですが、私たちは震災によって日常生活が当たり前営まれること

の大切さを知りました。震災から時間がたち、私たちの意識から遠くなっていくのも現実です。私は福島から帰ってから、せめてできることとして、小学校の先生たちへの勉強会の最後に、学校という場所が当たり前にあることの大切さを話すようにしています。今回の原稿依頼も、臨床発達心理士の皆さんに伝えられる機会を与えていただけたと感謝しています。

あれから半年以上が過ぎました。

1年間限りの支援でおしまいになるのか、この先どうなるのだろうと心配していましたが、今年度は「JDD ネット災害支援プロジェクト 2012」と名称を変え、支援が継続されることとなりました。私ももう一度、7月に相馬市に行く予定です。

また、ご報告をしたいと思います。

神奈川支部からのお知らせ

神奈川支部 2012 年度第 2 回研修会の予定

○日時:2013 年 2 月 23 日(土)(予定)10:00~17:00 (2 ポイント)

○会場:相模女子大(予定)

○テーマ:発達障害ー最新の研究と臨床の現場からー(仮)

詳細が決まりましたら、またお知らせいたします。

神奈川支部ホームページを開設しました！

<http://www.jacdp-kanagawa.jp/>



「NEWS LETTER」「研修会のお知らせ」「求人情報」を中心に、
「心理職の国家資格化に関する情報」などを掲載しています。

会員の皆さんからも発信したい情報も募集しております。

⇒神奈川支部事務局宛に メールでご連絡ください

事務局：jacdp-kanagawa@hotmail.co.jp